

哲西町診療所で4月から9月まで半年間研修させていただきました、植木千代と申します。あっという間でしたが、かけがいのない半年間となりました。この機会に振り返りとお礼をさせて頂きたいと思います。

最初から最後まで常に思っていることは「哲西町は暖かい」ということです。診療所のスタッフは患者さんのために常に何かできないかといつも一生懸命です。かかりつけの患者さんだけでなく、初めて来た患者さんでも困っていればどうすれば良いか毎日話し合っています。住民の皆様には、診察室や町内で出会った時に暖かい言葉をかけていただき、私の方が元気をもらえることもしばしばでした。

ご存知のように哲西町診療所には常に研修医が代わる代わる勉強に来て、皆「来てよかった」と帰っていきリピートする医師もいると聞きます。情熱溢れる佐藤先生の影響はもちろんですが、医師一人では不可能なことです。立ち上げから携わり常に支えてくださる現在のNPOの方々、胃カメラでも診察でもベテランの先生がした方が早くスムーズであるのにも関わらず、見守り支えてくれるスタッフ、そして何よりも住民の皆様のお陰だと思います。診療所内だけでなく、ミニデイや認知症カフェ、小中学校訪問など貴重な機会でした。こんなに町全体が一体となって愛情を持って教育に協力してくれる医療機関があるのかと驚きました。

私自身は学生るとき地域医療研究会に所属しており、そこで出会った田舎の診療所の医師に憧れて総合医を目指しました。卒業後は岡山市内の大病院が多くある地域で働いてきましたが、今回医師になって初めて、自分にとって原点である「田舎の診療所」に来ることができました。一方で学生の頃には想像がつかなかった大変さも知りました。都会であれば今日自分が診た患者さんがどこの誰かも、その後どうなったかわからないことも多いです。ある意味無責任でいられますが、小さな町では例えば自分が何か間違えたり見逃したりしても後から診る、最期まで診るのも自分です。いつでも何でも断らずに診る、というのはやりがいや楽しさもある一方、とてつもない責任の重さも感じました。こんなこと自分にできるだろうかと思いました。佐藤先生は「わからないことはわからないと言う、失敗したら素直に頭を下げる、誠実に一生懸命やっていたら少しずつ仲間が付いてきてくれる、大丈夫」と言いました。平凡な私ですがこの言葉を胸にこれからも目の前のことを一生懸命に、成長していきたいと思います。

子供と2人で過ごし、育児との両立に奮闘した半年間でもありました。1人で来た方が楽だったと正直初めは思いました。ですが、子供がいるからこそよりたくさん暖かさに触れることができたと思います。「きらりらで読んだよ、子供さんと来てるんだってね。大変だね、頑張ってるね」と何人もの方が診察室で声をかけて下さりました。「何か困ったら言ってね」「子供さんが遊ぶかなと思って砂場を作ったよ」と近所の方の言葉に支えられました。夜に子供と一緒にレクチャーを受けるときにはお腹が空くだろうとおにぎりを下さったこと忘れません。隣の保育園の先生方にもお世話になり、最後9月には運動会にも参加できました。暖かく思い出深い、感謝でいっぱい半年間になりました。

余談ですが、私は自然や動植物が大好きです。半年間哲西町で過ごして田植えから稲刈りまで移りゆく景色を見ることができました。ここで出会った多くの方が田んぼや畑をされており、時には美味しい野菜や果物もいただき本当に感謝し、尊敬しています。私も将来医師をしながら畑で野菜を作るのが小さな夢です。

本当にお世話になった半年間でした。恩返ししきれませんが、今後医師として、人として成長し続けていくことで社会に恩返ししていけたらと思います。本当にありがとうございました。